

会 議 議 事 録

会 議 名	令和7年度 第1回教育課程編成委員会
開 催 日 時	令和7年6月17日（火） 13:00～14:00
会 場	中央工学校附属日本語学校 5階
参 加 者	委員 坂本 敏、渡来純如、佐藤洋子、上野弘道、長谷川龍太、中島尚美 溝口健太、元田 剛、川口貴之、榎本 修 陪席者 齊藤利章、山崎隆史、宝利由紀子 以上 13名
会 議 録	1. 開会挨拶 座長の坂本敏校長から開会の挨拶を行い、教育課程編成委員会を開会した。 2. 状況説明（職業実践専門課程・学事概要） 坂本校長から「職業実践専門課程」の認定状況について説明があった。 ・ 専門学校（専修学校専門課程）における「職業実践専門課程」の認定等（令和7年度）について（配布資料参照） ・ 学事報告等（概要）について（配布資料参照） 3. 運営報告・運営計画について 坂本校長と渡来純如委員から令和6年度運営報告及び令和7年度運営計画の説明があった。 （1）令和6年度運営報告 ・ 学校運営 ・ 教学運営 ・ 動物管理運営 ・ 施設・設備の改善・整備 ・ 広報活動の基本方針と成果等 （2）令和7年度運営計画 ・ 建学の目的と教育方針 ・ 運営方針及び運営重点項目 ・ 教育指導内容及び教育運営の充実 ・ 教育設備機器等の整備 ・ 就職指導体制 ・ 広報計画等

4. 具体的検討

令和6年度運営報告及び各学科の教育運営に対して必要な検討を行い、今後改善を要する案件や意見が挙げられた。主なものは次の通り。

(1) 愛犬美容関連科（愛犬美容科・愛犬美容研究科）

①犬の飼育頭数減少傾向にあり。林良博先生の『日本から犬がいなくなる日』という本によると、2040年には犬が46%減の見込み。ペットに関わる仕事の半減が危惧される。犬の飼育頭数増加に向けて、当社の取り組みとして、7月から全国140店舗で子供対象勉強会を展開している。

②北区、自治会との動物同行避難の協定締結は良い取り組み。

③猫の飼育頭数は横ばい傾向のため、販売比率は約3割、トリミングの需要増加。本校の教育において猫のカリキュラムを強化すると学生増へつながるのでは。猫のトリミングモデルが必要な場合は当社のケアセンター登録の猫借用可。

⇒猫の美容実習は現状、選択制で実施中。猫は近年、学内飼育をしていない。できれば年内に学内飼育を再開したい。

④動物介在教育の普及、推進をしてほしい。

⇒共生科授業で近隣の福祉施設や保育園等で介在活動を実施中。

⑤当社でも犬の飼育頭数の減少に合わせて、現場で一部販売をとりやめ譲渡活動を実施。猫のカリキュラム強化、猫のトリミング実習充実化を期待する。猫の施設がある店舗では、里親はすぐ見つかる状況。

⑥保護犬・保護猫が増加傾向にあり、シニア犬・猫の保定、トリミング技術の指導をしていただけると現場としてはありがたい。

⇒以前、(株)AHB様から保護犬の紹介を受けて学内での預かり実施や環境省主体の保護活動にも参加した経緯あり。

⇒シニア犬の対応、問題犬の対応については現状実施していないが、今後特別授業として必要性を検討したい。

⑦動物美容関連科については、単なる「美容」ではなく、動物の健康とQOLの向上に寄与する仕事として、重要な役割を担っていると考えている。動物とご家族に寄り添い、日々のケアを通じて健康維持に貢献するという意味では、今後さらに社会的評価を高めていくべき分野であり、時代に合わせた価値の再定義と、それを支える教育内容・発信力の強化によって、卒業生が自信を持って社会に貢献できるような環境整備が望まれる。

(2) 愛玩動物看護科

①奨学金受給の学生数やマナーリテラシー的な教育の実施状況について確認したい。

⇒税金、租税教室実施。卒業直前の実施が有効なのか。

②動物福祉に関して、当院でも地元の小学校、中学校への出張授業を実施し

	ている。動物と共に暮らす幸せ、豊かさを感じてもらいたい。北区等で動きがあれば当院も協力したい。 ③看護科の事業報告における、高度医療機関、専門性の高い動物病院での校外研修の実施状況について確認。エコー、CT、MRI も一般的になることが見込まれ、学生のうちに学ぶ、機器に触れる機会があると良い。 ⇒高度機器導入は、メンテナンスコスト高のため断念した経緯あり。数年前、文科省事業でバーチャルで見るプログラムに参画したことがある。 ④国家資格（愛玩動物看護師）になったことにより入学する学生の質に変化はあるか？ ⇒一時的にはあったが、現状はかわらない。入学生数は募集定員に達していない状況。 ⑤臨床で獣医師をしているが、20 年程前、教育機関での講師経験がある。本校で掲げている教育理念に、豊かさ、社会性を訴えているところに共感できる。 ⑥看護系の質の確保に注力してほしい。国家資格化されたことにより、認定看護師とアニマルケアスタッフと二分化していることを鑑み、2つの目的で教育すべきでは？獣医師の片腕になり得るスタッフ教育を明確にしていく必要あり。 ⑦愛玩動物看護師も社会性に関連した活動が多い。看護系に近い社会性が備わる教育も実施してほしい。 ⑧日本臨床獣医学フォーラム（JBVP）などの学会への参加も薦める。見学だけでも光がみえてくるイメージ、視野が広がるのでは？ 学会でも MRI や内視鏡、腹腔鏡を扱うブースもあり、間近に見る、触れる機会を増やすことで、質の確保のみならず、質の向上につながっていくと思われる。 ⑨420 名の当初在籍から 42 名の休・退学、約 1 割が多いのか少ないのか。その 1 割の学生を残そうとする取り組みか、退学について割り切っているのか。 ⇒主な退学理由は、進路変更、経済的理由。心療内科的な理由も散見される。率（割合）は年度により異なる。臨床心理士によるカウンセリングの機会を設け対策している。 ⑩愛玩動物看護師の有資格者と無資格者の差について、当院では待遇面では資格手当として 1 万円程支給。担当する業務内容で違いを出すところもある。動物看護業務に就くスタッフは貴重な存在としている。 （３）動物共生関連科（動物共生研究科・動物共生総合科） ①動物共生関連科の介在活動では、学生が意欲的に入居者達とコミュニケーションを取り、入居者も癒されていますが、学生にも良き学びの場になっていると感じている。
--	--

- ②当法人では今年新卒9名入職し、すでに2名退職1名休職。そのほとんどが仕事内容という以前に、環境の変化に順応できないという理由。中央動物専門学校は休学・退学・除籍が在籍総計の約10%。求人数が50%程度減少していることが気になるが、動物関係業界では特別な事ではないのかも知れない。
- ③個人的には、動物共生総合科のカリキュラムには、非常に高い可能性を感じている。動物との共生や社会的課題へのアプローチなど、多角的な視点を持つ人材の育成は、これからの社会にとって極めて有意義であり、そうした人材が今後さまざまな分野で活躍することを期待している。

(4) 各学科共通

- ①学生総数の減少傾向については、今後の学科運営や学校全体の存続にも関わる重要な課題であると認識している。現状では、愛玩動物看護科が学生数の面で全体を支える柱となっているが、愛犬美容関連科や動物共生関連科においては、定員確保や志望者増加に向けたさらなる取り組みが必要と感じる。動物美容関連の分野や共生総合科に関しては、社会や動物との関わり方が多様化する中で、その学びの意義や将来性を、今一度明確に打ち出していく必要があると思われる。
- いずれも潜在的には非常に価値ある分野であり、社会的なニーズも存在していると考え。学科の魅力の再定義と、どのような形で高校生やその保護者に伝えていくかが鍵となる。
- ②SNSをはじめとする情報発信において、現代は情報の量もチャネルも膨大であるがゆえに、ただ発信するだけでは埋もれてしまう可能性がある。発信の「中身」と「方向性」に一貫性を持たせ、どのようなターゲットに何を届けるのかという視点から、戦略的に取り組んでいくことが重要。情報を受け取る側に響く言葉やビジュアル、タイミングを含めて、戦略的に設計された広報活動が、今後ますます必要。
- ③将来的にどのような仕事につながっていくのか、そこでどのように社会に貢献できるのかというビジョンを、在学生はもちろん、これから進路選択をする生徒たちにも丁寧に示していくことが不可欠。社会に出た後の姿が具体的にイメージできるような工夫が、進路選択における大きな決め手となると思われる。
- ④学校全体として、各学科の個性と価値を改めて見つめ直し、それを的確に発信し続けていくことで、志望者の増加と教育の質の向上が両立できるのではないかと考える。

5. 次回委員会開催連絡

次回の委員会を、令和8年1月20日（火）14:00～とする。詳細は後日連絡。

	6. 閉会 座長の坂本敏校長から閉会の挨拶があり、教育課程編成委員会が閉会した。 【配布資料】 ・教育課程編成委員会 令和7年度第1回委員会 議事次第 ・令和6年度運営報告 ・令和7年度運営計画 ・学習の手引き（履修便覧）2025年度 ・教師・保護者用ガイドブック2026 ・学校案内書2026 ・職業実践専門課程関連資料 ・学事報告等（概要） 以上
--	---